

タイトル：2020 年度教育セミナー（第 16 回）

日時：2020 年 9 月 17 日（木）～20 日（日）

オンライン開催

「東南アジアのムスリム社会における日本発ポピュラー文化の文化人類学的研究－マレーシアとフィリピンの事例を中心に」

床呂郁哉（東京外国語大学 AA 研）

今回の報告では東南アジア（特にマレーシア、フィリピン南部）のムスリム社会における日本発のポピュラー文化（カワイイ／オタク文化等）の越境と受容をめぐる事例、そこにおける身体表現・表象を含む問題についての紹介と文化人類学的な検討を行った。

アニメやマンガ、ゲーム、コスプレなど日本発のポピュラー文化は近年の東南アジアのムスリム社会においても浸透しつつあるが、その中にはローカルな社会・文化的な文脈に応じて独自の展開をしている場合もある。その一例として、本報告では SNS における身体表現であるとか、マレーシアにおけるマンガ（特に同人誌）文化、「ヒジャーブ・コスプレ」等の事例を中心に報告者の現地調査に基づいて紹介し、考察を行った。

まず日本のアニメやマンガなどのキャラクターのコスプレは、東南アジア各地でも現地のファンの間で普及しており、毎年コスプレに関する各種のイベントが盛んに開催されている。このうちマレーシア（やインドネシア）をはじめムスリムが人口の多数を占める地域では、イスラームの価値観や規範に沿う形で、ムスリム女性が髪の毛を隠すヒジャーブ（スカーフ、ベール）を着用したままでコスプレを演じるというスタイルー「ヒジャーブ・コスプレ」一が目を引く。イスラーム的価値観と日本発の「カワイイ文化」の混淆とでもいうべき事例は「ヒジャーブ・コスプレ」だけに留まらない。東南アジアのムスリムの間でもフェイスブックをはじめ SNS の使用が急速に浸透しつつある。そこでのムスリム女性の使用するアイコンの画像などを分析すると、日本の「萌え」系のキャラクターを使用しつつ、それにヒジャーブを着用させたような画像であるケースも見受けられる。他にもマレーシアではムスリム女性向けの化粧やメイクアップ等の指南書の類に日本のアニメ・マンガ風に描かれたカワイイ女性キャラクターを登場させるような事例が少なくない。また、いわゆる「腐女子」の文化もマレーシア（やフィリピン）である程度浸透しつつある。例えばクアラルンプールのコミケ・イベントでは日本と同様にいわゆるボーイズラブ系の同人誌（日本から輸入されたものの他、現地で制作されたもの）を販売するブースを確認することができる。

以上のような現地における日本発ポピュラー文化をめぐることは、例えばコスプレにおける異性装（クロスドレス）の多さなどの特徴をはじめとして、いわゆるトランスカルチャー的な文化の越境という視点から捉えることができる。また現地におけるその受容の過程で、「イスラーム的」言説を含む現地のイデオロギーや価値観との擦り合わせに関する論争や摩擦なども存在しており、文化的な越境と、それに伴う新たな境界の再生産という動態に注

目していく必要がある。

(以上、終わり)